



「ビジネス社会で求められる日本語 2」

育達商業技術學院 應用日語系

蔡政奮

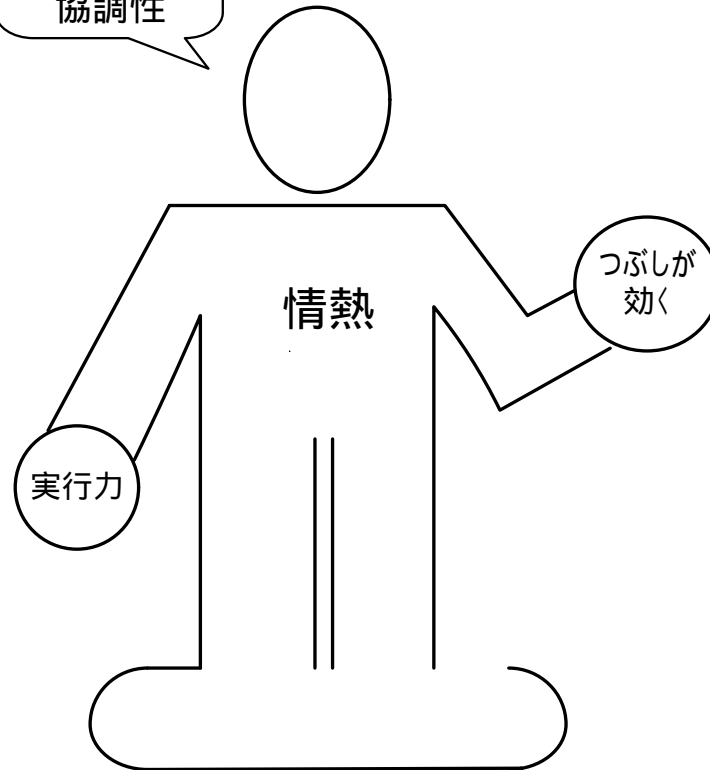


本日の話しの要点

- ビジネス社会ではどのような人材が求められているか、いかなる能力が必要とされているか
- 日本語を専攻した学生は企業の期待に応えられているか
- 企業における社内教育の考え方
- 企業のニーズに応えられるカリキュラムの基本的な考え方
- 学生諸君への提言

ビジネス社会で求められる人材

積極性
行動力
協調性



入社後求められる言語能力

■ 文書作成能力

- ✓ 議事録、報告書、依頼書、企画書などの作成
- ✓ 社内外の通訳能力

■ 業務能力

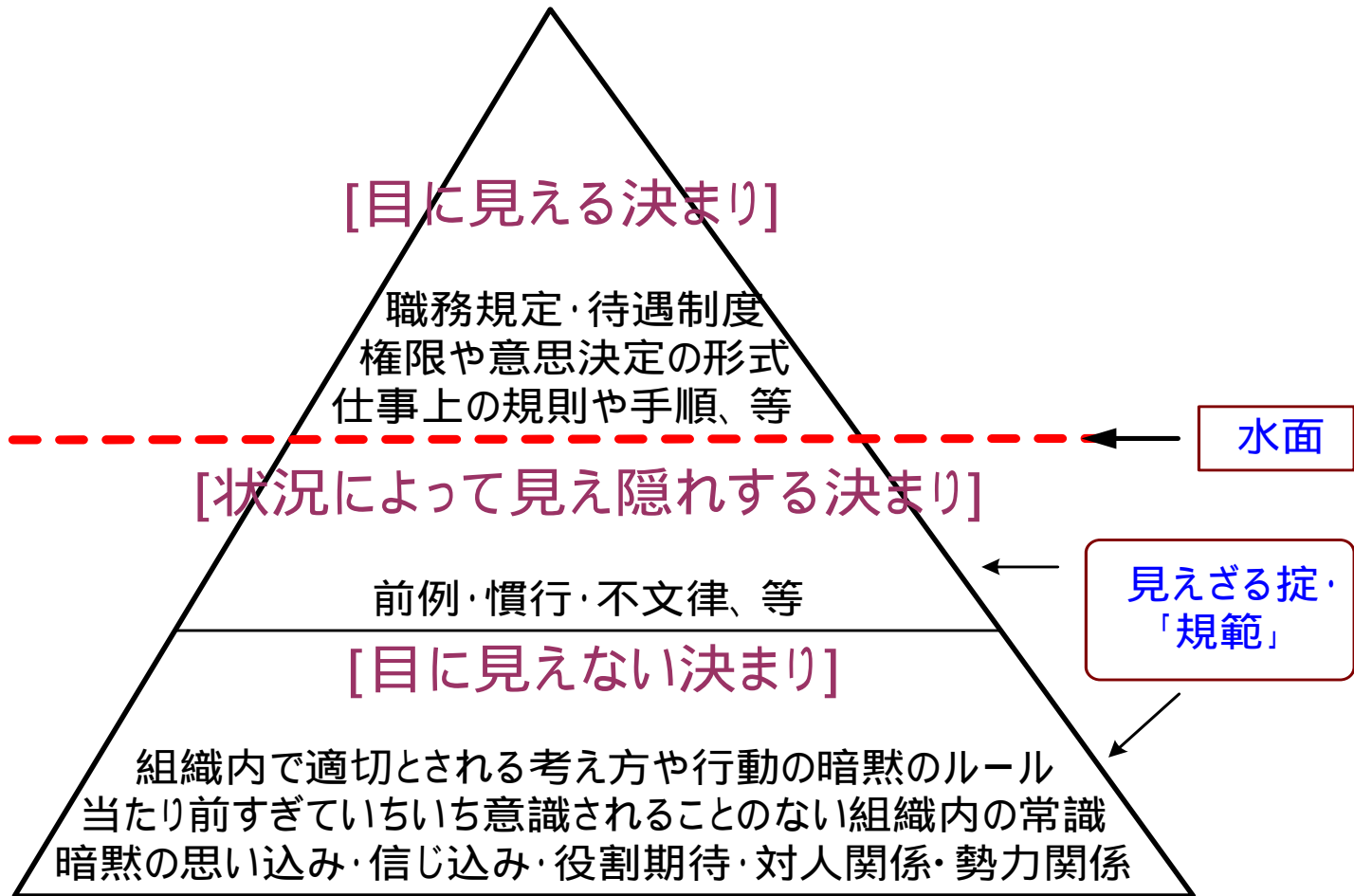
- ✓ 本社 子会社の業務連絡
- ✓ 取引先、協力会社との折衝力・交渉力



企業からの期待

- 即戦力重視の観点から、日本語による議事録、業務連絡書、Fax、e-mailなどの作成能力を有すること
- 日本語の表現能力のみならず、ビジネスの基本(身だしなみ、仕事の進め方、トラブル対策、ホウレンソウの基本)も身に付けてほしい
- 通訳する際のやり取りを間違いなく伝達できる能力

組織に存在する決まりの構造



卒業生からの声(1)

- 入社後すぐに高度な翻訳をさせられたが、できなかった(契約書)。
- 日本語能力検定一級の資格を持っているので、通訳を担当させられたが、とても対応できなかった。(IC基板洗浄剤を取り扱う日経企業)



卒業生からの声(2)

- 董事長に合弁企業である日本のパートナーの株主総会への委任状を書いて欲しいと言われた。どうしたらよいか分からなかった。(ハイテク産業の製造機器を取り扱う企業)
- **ビジネス文書作成の授業はとても役に立った。**



能力試験と企業が求める日本語能力

- 能力検定試験一級に合格しても企業が求めるニーズには万全ではない。むしろ、対応できない場合が多い。

- 理由

検定試験は「文字・語彙、聴解、読解・文法」の試験である。企業が求めている日本語能力は、ビジネス文章作成力、仕事の進め方の基本、論立て能力などで、それらは検定試験対策では養えない。

日本語能力試験の級別習得レベル

級	学習時間	習得漢字数	習得語彙数	習得レベル
1	900	2,000	10,000	社会生活をする上で必要な、総合的な日本語能力
2	600	1,000	6,000	一般的な事柄について、会話が でき、読み書きできる能力
3	300	300	1,500	日常生活に役立つ会話が でき、簡単な文書が読み書き できる能力
4	150	100	800	簡単な会話が でき、平易な文、または短い 文章が読み書きできる能力

出所 独立行政法人国際交流基金：日本語能力試験のひろば (<http://momo.jp/jlpt/j/about.html>) を参考にし、まとめ直したもの

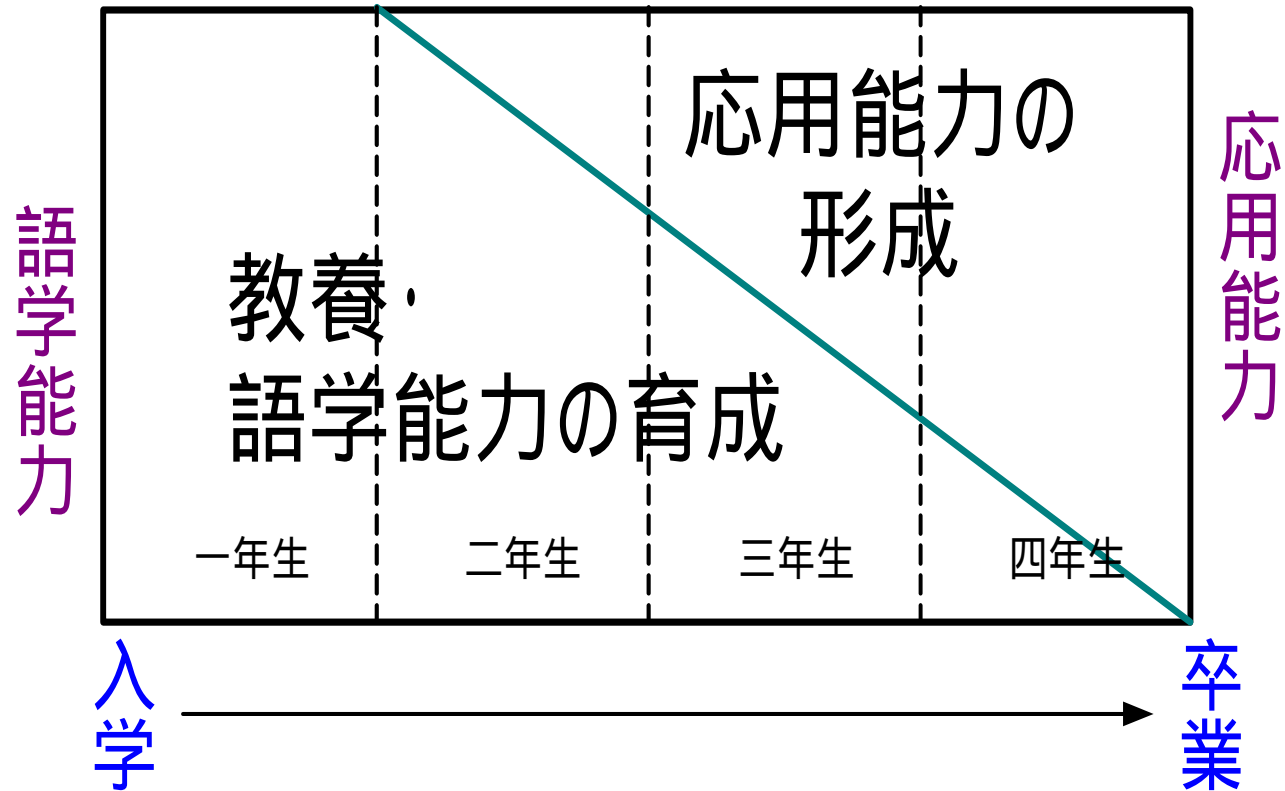
企業から見た日本語能力のレベル とは（私案）

級別	達成水準
初級	簡単な会話及び、仕事に関する簡単な説明(5W2H)やアポイントメントを独自で取ることができる。一人で出国する際、飛行場での搭乗手続き、出張先での乗り物の利用、質問・確認、ホテルでのチェックイン、レストランでのオーダー、支払いなどトラブルなくできる。
中級	日常の生活会話及び担当業務に関することのやり取りがほぼ理解できる。文章による表現にはなお不十分さは残るが、日本の親会社や取引先の会社で研修を受けたりする際は、問題なくほぼ理解できる。なお、研修を受けることによって自己啓発が期待できる。

企業から見た日本語能力のレベル とは(私案)

級別	達成水準
上級	一般の会話及び業務上の打ち合わせができる。担当業務に関する特定分野のドキュメントや技術資料が正確に解読できる能力を有する。また国際電話などによる業務のやりとり、複雑な交渉、またはファクス、eメールやビジネス文章の作成が難なくスピーディーにこなせる。
応用	「聞く、話す、読む、書く」の四技能を自由に操ることができる。単独で海外出張し、商談(市場の開拓、取引条件の交渉、クレームの処理など)やある特定のトピックについての折衝ができる。相手を説得したり、納得させたり、自分の主張を先方に分からせたりすることができるぐらいの語学運用能力を持ち合わせている。また、日本人と現地のスタッフとの意思疎通の役割が果たせるよう、込み入った話の「通訳能力」を有する。

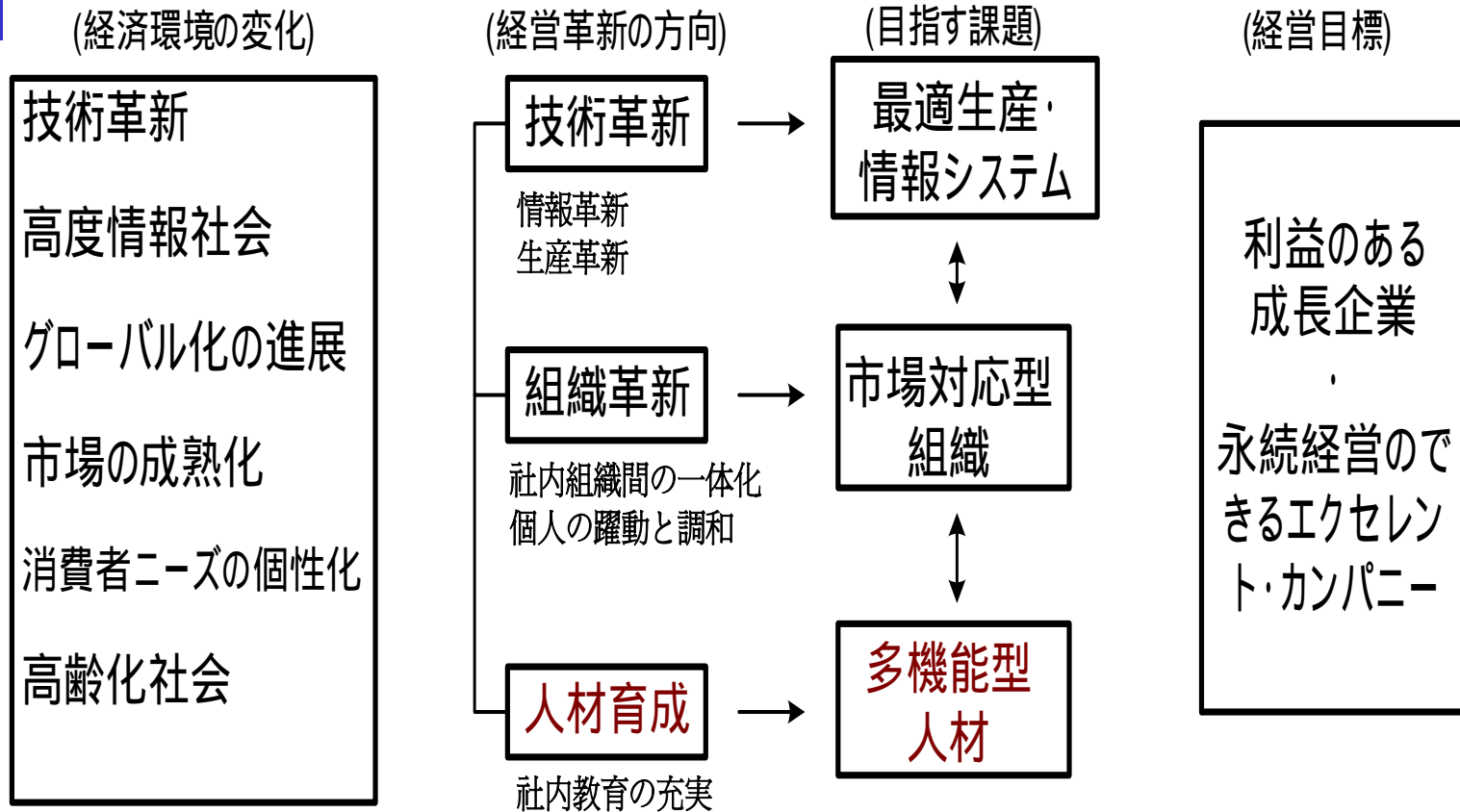
(応用) 日本語学科におけるカリキュラム編成の考え方



企業のニーズに応えられるカリキュラムの基本的な考え方

- 応用能力の形成の成否は語学能力の育成の成果に左右されている。
- よって、しっかりした語学能力を学習者に身に付けさせることが成否の出発点となる。
- 応用能力の具体像は明確でなければ成果は期待できない。
- その具体像は常に時代のニーズに照らし合わせ、検証していく必要がある。

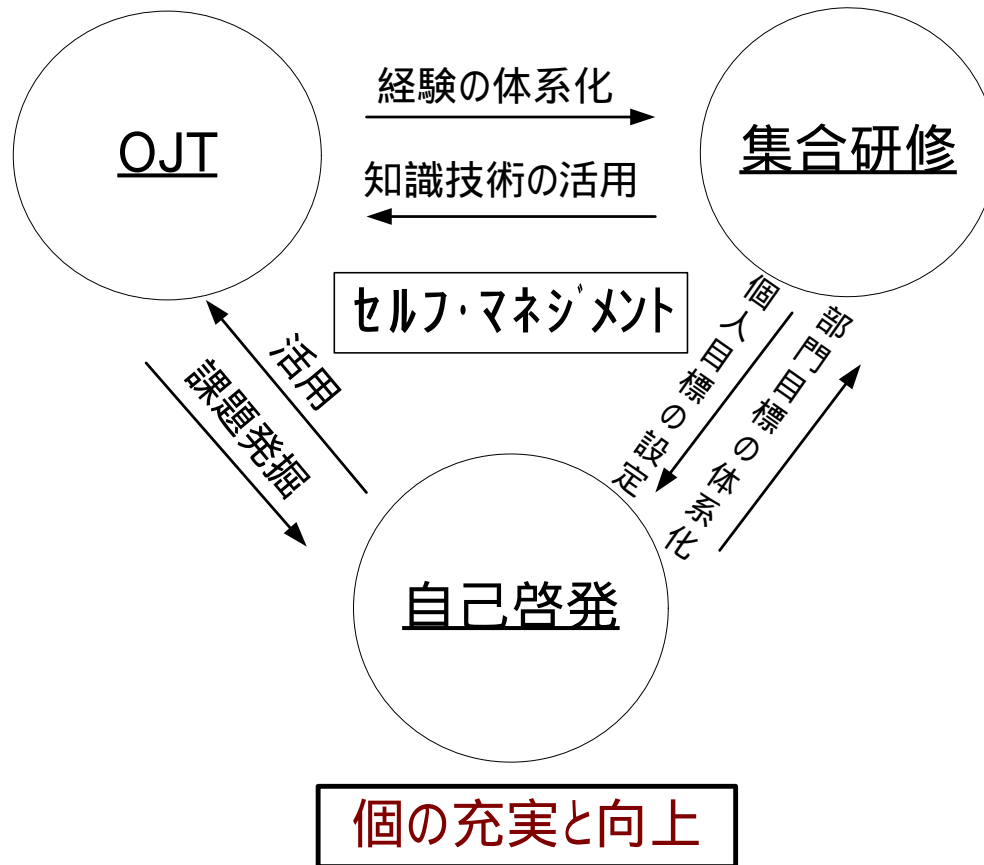
企業の経営課題と目指す人材像



企業における社内教育の考え方

職場の活性化
職場での能力開発

職能・技能の習得
きっかけ作り





多機能型人間になるために

- 常に問題意識を持つ。
- 高感度の人間になれ。他人と異なる発想・着想を心掛け、創造力を発揮する。
- 得意とする分野において、最高の知識と技術を身に付ける努力を怠らない。
- 専門以外のことに対しても、積極的に挑戦する勇気と行動力を持つ。
- 自ら考え、自ら実行し、自ら検証できる人間になる。



学生諸君への提言

- 在学中基礎知識、物の考え方、自己管理能力、表現力、ロジックの立て方などが身に付けられるような努力を惜しまない。
- 日本語能力はコミュニケーションを図るための道具である。日本語能力プラス入社後の**専門能力の習得と仕事への取り組み方**により、自分の将来を切り拓いていくことができる。